

幼兒畫に現れた種々

(昭和四年二月十三日より三月十六日まで)

東京女子高等師範學校家事科教生

四週間の月日を私達は幼兒を友として暮した。永い間寄宿生活にあつて幼兒の生活を覗く事も充分なし得なかつた私達は先づ幼兒の生活を壊さないように注意して仲間入りする事が大きな仕事であつた。肉體の働きと一緒に精神的に大きな努力が要る。無意識では自分の統制も亂れてゐる時もあるので幼兒の生活を壊しさうである。さうかと云つて意識的でのみある事は尙恐ろしい。細心の注意を拂ひながらゆつたりと振舞はねばならなかつた。努力しようにも戸惑ひして手をつかねばならなくなつた。然しそのまゝで止む事も出来ない。四週間友として暮した幼い人達の實際生活から得たものを形としてよりよき紀念を残さずにはゐられない。斯うした心から次のやうなしらべものを作つて見た。

日頃幼稚園の仕事となつてゐる御繪書き(自由畫)と、下手な邪魔はしたくないと極くひかへめにいらかの條件を附けて書いた繪とを材料とした。

I 表 情 畫

笑つた顔、泣いた顔、怒つた顔を書かせた。この三つの表情を區別した者の數を表せば

	年長組男31人 女25人の中		年少組男25人 女25人の中	
目も口も區別せる者	12人	5人	2人	6人
目のみ區別せる者	6人	2人	5人	2人
口のみ區別せる者	4人	—	7人	3人
其他の表出手段を用ひし者	15人	8人	3人	—

笑つた顔



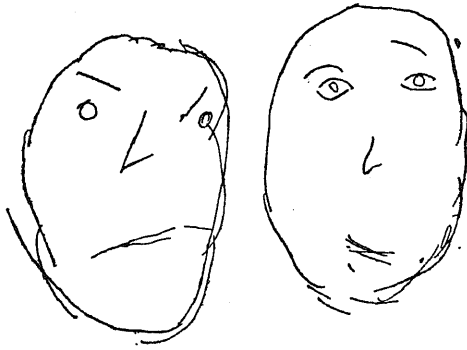
泣いた顔

其他の表出手段と云ふのは笑つた顔に就て云へば、女を描いて特にその頬に紅をさしたる畫が多く、又眼を細くし殆んど無視した者が二三あつた。泣いた顔には全體の2/3位は涙を以つて之を表出してゐた。又表情だけで之を表せなくて喪章を附ける事によつて泣くと云ふ表情を表さうとしてゐる者もあつた。

怒つた顔は他の表情よりも幼兒にとつて表し易いらしかつた髪を立てたもの、角を生した者、一體に線を強くした者、又芝居から表情を採つた者もあつた、以上の事柄は年長組に於て割合に表出が明である。

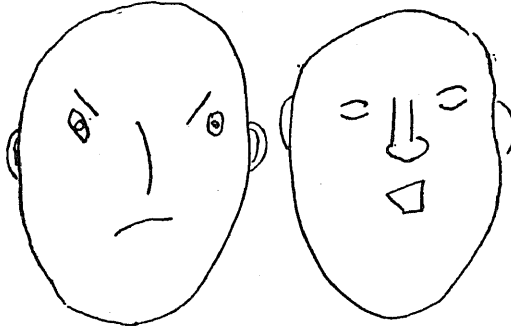
II 物語りを繪にかゝせてた

恐つた顔



笑つた顔

怒つた顔



笑つた顔

泣いた顔



怒つた顔

大體の筋は次の様である。天井から取出した大きな黒い團扇で水谷先生が堀先生を扇いたら堀先生が南極へ飛んで行つてしまつた。先生は泣いて居たが珍しいお辭儀をするペンギン鳥に會つたので嬉しくなる。水谷先生はさうとは知らず、どうしたらよいだらうと思つて心配する。さうしたら團扇の柄に（この柄を引くと歸る）と書いてあつたのでその通りにして堀先生を歸らせる事が出来た。

之は他の話と一緒に前の日に聞いたので、いくらか想ひ起させるために別々の先生がヒントを與へなければならなくなつた。そのために正確な成績は得られなかつた、然し年少組は話を畫に書くと云ふ事は束縛を感じずらしいが年長組は寧ろ興味を以て書いた。一體に知らない所に行つて悲しくて泣くと云ふ事よりは團扇で煽いだら飛ぶ、とかペンギン鳥とお話をする、とか云ふ様な積極的な場面を書いてゐる。年少組は團扇と云ふ様なものを畫き、年長組になると物語りの筋を書いてゐるものも一二あつた。

III 寫 生

年少組には「描けない」と嫌がる者が多く、年長組は割合に興味を以つてかいた、が普通の自由畫よりは一倍半の時間を要した。又寫生に於て現れた特徴の著しいものは見てそのまゝかくと云ふよりも記憶によつてかくと云ふ事である。自分の前に前向の象があつたにしても象として記憶するものが横向であればその通り横向にかく。この象の様に記憶にはつきりしたものをかゝせると苦痛なしに描く事が出来るが、記憶に乏しい例へば花瓶に花を二三本挿した様なものになるとかなり難しい様である。

年長組の方は大體均整のとれたものを畫き、花も色や、大きさ、形等によつて、幾分區別してゐるものが多い。年少組になると花瓶と花の釣合及び畫と畫用紙との釣合がとれてゐない。花瓶には桃と菜の花が挿してあつたが桃の枝の先に黄色い菜の花を附けてゐる。

一體に象の方は男兒が形の整つたものを畫き、花になると女兒が色の使ひ方その他釣合等に於つて勝つてゐる。

IV 自由畫に就て

之はお繪畫の帳面から取つたものである。

自由畫に現はれたもの、種類をしらべた。

數の多いものから順に並べると次の様である。

年長組

男 舟。景色。電車。家。自動車。汽車。人。

女 花。景色。家。人。舟。器物。

年少組

男 舟。電車。自動車。人。花。景色。

女 人。花。家。電車。旗。景色。

之は幾分模倣や練習が加つてゐる。年長組になると意味の分らないものは殆ど無い。

下級組は錯畫とても云はうか線で出來た意味の解らないものを畫く子供も居る。

聞けばそれ／＼意味を附けてゐてさうかと思はれるものもある。

一體に風でも、神様でも、又飛行機の飛んだ跡でも目に見えるものと同様に畫にしようとする。表によつて見られるように年少組は人、舟と云ふ様にそのものだけをかゝるが、年長組になると附屬物を加へるものが多い、表の景色と云ふのは即ち之である。例へば家を描くにも木や空又は道や草花等を加へてゐる。之は發達の經路と見る事が出來るであらう。

女兒は花、家、人、男兒は舟、車等が多く色等も女兒は華やかな色を用ひ男兒はくすんだ色を多く用ふ。年長組は各個人の型が出來てゐる。批判的な分子も含まれてゐて、模倣も許さない。

「誰さんは上手だ僕は下手でせう」と云ふ様な事も云はれる。然しそれは心理的に意識的批評的と云ふよりも大人の語の模倣によるものと見られる。

前にも述べた通り年長組と年少組とは大變な相違を現してゐるが、この幼稚園では兒童の活動本位になされてゐるものであるから、この點から見ると幼兒の成長の大いさが肯かれる。

男女の相異點も幾分現はれる。幼兒畫と云つても年齢と場所と日月とを限られ、然かも背景となる知識に乏しいのであるから、おぼつかない右の數言を躊躇しながら述べる次第である。

以上